

# 科目「中学音楽」シラバス

## 1. 中学3年間での教科到達目標

多様な音楽文化の理解を深め、生涯にわたって美に対する憧れの心情を養う。	音楽の幅広い活動を通して、感性を高め、自己表現できる積極的な能力を養う。	基本的な音楽理論を通じ、音楽の仕組みを学ぶとともに、音楽を楽しみ、親しめる心の目を開かせ、仲間と協力して音楽を創り上げる能力を養う。
-------------------------------------	--------------------------------------	--

S：想定以上に該当能力の醸成が達成されたと判断されるもの

A：期待通りに該当能力の醸成が達成されたと判断されるもの

B：部分的に該当能力の醸成が達成されたと判断されるもの

C：該当の能力の醸成が不十分と判断されるもの

## 2. 科目の到達目標と評価の観点

	単位数	学科・学年・学級	使用教科書と補助教材
(教科名) 音楽 (科目) 音楽	2単位	第1学年	教科書：中学生の音楽1 教育芸術社 大妻指定の音楽ノート ソプラノリコーダー
学習の到達目標	歌唱、器楽、鑑賞などの音楽活動を通して、音楽の仕組みや基本的な音楽理論を学び、音楽への興味や感心を養う。		
評価の観点	<知識・技能> 楽曲の内容や曲想に関心を持ち、音楽表現を工夫して主体的に取り組もうとしている。		
	<思考力・判断力・表現力> 曲想を感じ取って音楽表現を工夫し、どのように演奏するかについて、思いや、意図を持っている。		
	<主体性・多様性・協働性> 楽曲の内容や曲想を生かした音楽表現をするために、必要な技術や技能を、身に付けている。		

【点数化が難しい課題については、観点別評価とする。】

A：「十分満足できる」状況と判断されるもの・・・100%

B：「おおむね満足できる」状況と判断されるもの・・・80%

C：「努力を要する」状況と判断されるもの・・・60%

D：未提出、未実施・・・0%

## 2. 学習計画及び評価方法等

月	単 元	学習のねらい	学習のポイント, 使用教材等
1 学 期	歌唱 「校歌」 大妻指定のノート	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発声、呼吸法、強弱などに注意して歌う。</li> <li>○基本的なポイントを押さえ、積極的に歌う姿勢を大事にする。</li> <li>・曲の特徴を認識させる。</li> <li>・曲の分析からどのように歌うかを工夫させる。</li> <li>・途中、拍子が変わる箇所</li> <li>・指揮者と伴奏者の役割</li> <li>・指揮者と伴奏者の関わり</li> <li>○指揮者、伴奏者と協力しながら校歌を練習していく過程を構築し、後の合唱曲への取り組みの礎とする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・無理のない発声</li> <li>・歌う姿勢</li> <li>・口の開け方</li> <li>・歌詞を覚えアンプで歌う。</li> <li>・楽譜内にほとんど強弱記号が付けられていない事から、作詞者と作曲者の思いを感じ取らせる。</li> <li>・生徒 1 人 1 人の感情や思いを大切にしたい表現方法の工夫。</li> <li>・指揮の振り方の工夫</li> <li>・指揮者選出</li> <li>・伴奏者選出</li> </ul>
	器楽 「主人は冷たい土の中に」 フォスター作曲	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ソプラノリコーダーで演奏</li> <li>・曲は二部形式で、平易な音符の組み合わせで構成されているので、音符やリズムの理解の定着として導入する。</li> <li>・四種のアーティキュレーションをつけて、より豊かな演奏を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ソプラノリコーダーの運指の確認</li> <li>・二部形式</li> <li>・終止感の理解</li> <li>・ノンレガート奏法</li> <li>・スラー奏法</li> <li>・スタッカート奏法</li> <li>・ポルタート奏法</li> </ul>
	笛の「実技テスト」	<ul style="list-style-type: none"> <li>○実技テストとして、各個人が演奏を録画し、ロイロで担当教員に提出</li> </ul>	

1 学 期	<p>楽典 「ドリルノート」を使用</p> <p>「音名冊子」を使用</p> <p>合唱 卒業式の全体合唱 「夢をあきらめないで」 岡村 孝子作詞・作曲 2部合唱</p> <p>鑑賞 ミュージカル 「サウンドオブミュージック」より 「エーデルワイス」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ロイロの取り扱いを学ぶ。</li> </ul> <p>○普段何気なく目にしている基本的な記号や音符の書き方とその意味を理解し、音楽への好奇心や関心につなげる。</p> <p>○日本、イタリア、ドイツ、英米の音名の理解 シャープやフラットのついた音名を理解し読譜力を高める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業式の全体合唱に向けて</li> <li>・パート分け</li> <li>・パートリーダーの選出</li> <li>・指揮者、伴奏者の選出</li> <li>・パート内での音取り</li> <li>・楽譜内の記号の取り扱い</li> </ul> <p>○パートリーダーを中心とし協力して音取りが出来る体制を築く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語および原語での歌唱</li> </ul> <p>○DVDで「サウンドオブミュージック」を鑑賞して「エーデルワイス」が歌われている場面やその背景を学び、視覚的に音楽の豊かさや美しさを感じ取る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ロイロでの録画方法</li> <li>・録画の保存</li> <li>・録画の提出方法</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ト音記号、ヘ音記号、ハ音記号</li> <li>・音符、休符</li> <li>・臨時記号</li> <li>・調号</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本音名と高さの区別</li> <li>・イタリア、ドイツ、英米の音名での読み書き</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・女声合唱と混声合唱との違い</li> <li>・2部合唱への取り組み方</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3拍子が生み出す特質や、雰囲気感受</li> <li>・言葉の発音や呼吸法の技能を身に付ける。</li> </ul>
-------------	---	---	---

夏休み課題	<p>合唱祭「クラス合唱曲の選曲に向けて」</p> <p>「合唱祭候補曲シート」の提出</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・合唱祭準備</li> <li>・グーグルクラスルームに配信する「合唱祭候補曲」を聞いて感想と選曲を行う。</li> </ul> <p>○女声合唱の響きに関心を持たせ、主体的にクラス合唱に取り組みさせる導入とする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・斉唱と合唱との違い</li> <li>・合唱の和声的なハーモニー</li> <li>・同じ曲でも編曲者によって曲の内容や雰囲気が変わる等を理解する。</li> </ul>
2学期	<p>合唱 「曲目決定」</p> <p>合唱「合唱の役割選出」</p> <p>「曲作り」</p> <p>「曲のイメージ作り」</p> <p>「指揮法の基礎」</p> <p>「伴奏の注意点」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラス合唱として取り組む曲目の決定</li> <li>・指揮者、伴奏者、パートリーダーの選出</li> </ul> <p>○立候補や推薦など、皆で協力して、より良い選出となるような取り組み方を実践させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・パートリーダーを中心に自主的に音が取れるようにする。</li> <li>・曲に対するイメージをイラストにして描き、考えさせる。</li> <li>・歌詞の意味や歌詞に込められた心情を考える。</li> </ul> <p>○パートやグループ内で話し合いを行い、どのように歌うかについての考えや意図を持たせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・曲に合わせた指揮の工夫</li> <li>・歌と伴奏とのバランス</li> </ul> <p>○指揮者と伴奏者と合唱の3者の一体が大切であることを理解させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・立候補者が出やすい雰囲気や、全体の前で自己表現ができるムード作りに取り組みさせる。</li> <li>・パートリーダーが指示を出しやすい様に、皆で協力して参加する協調性を養う。</li> <li>・歌詞の内容や曲想に興味を持ち、主体的に取り組ませる。</li> <li>・拍子の基本的な図形</li> <li>・強弱</li> <li>・テンポ rit. フェルマータの取り扱い</li> <li>・伴奏の音量の工夫</li> </ul>

2 学 期	「各パートの合わせ」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指揮者、伴奏者と共に全体を通す取り組みを行う。</li> <li>・楽譜に書かれている様々な記号に着眼して表現方法を考えさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パートごとのイメージを基に全体としてのまとまりや音楽表現を構築する。</li> <li>・歌詞</li> <li>・リズム</li> <li>・強弱</li> <li>・多声的なパートの役割等の工夫</li> </ul>
	「歌の実技テスト」 前半	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実技テストとして、パート1人ずつで歌う。</li> <li>・公開の試験にすることで、他の仲間の演奏を聞き、自分の歌い方の参考にできるようにする。</li> <li>・指揮者や伴奏者は、グループの演奏を聞いて、状況を把握し、これからの合唱作りの参考とする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仲間の前で、他のパートにつられず、自分のパートがしっかり歌えるかを認識させる。</li> </ul>
	「指揮者」「伴奏者」のテスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指揮、伴奏の技術的内容の他に全体を指導する試験も行う事によって、リーダーとしての自覚を育成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指揮が振れたか</li> <li>・伴奏が弾けたか</li> <li>・前回の歌のテストから、指揮者や伴奏者は全員に適切な指示が出せたか</li> </ul>
	「クラス合唱の録画」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・合唱隊形に並ぶ。</li> <li>・演奏を録画して、意見の交流を行い、曲のイメージを具体化させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・効果的な響きになるための合唱隊形の工夫</li> </ul>
	「振り返り」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体を通しての感想</li> <li>・個人としての感想</li> <li>・良い点、反省点を考察</li> </ul> <p>○積極的な意見交流ができるような主体性を持たせる。</p> <p>○次に向けてどのような練習が必要かの積極性を持たせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・表情、姿勢</li> <li>・歌詞</li> <li>・強弱</li> <li>・パートのバランスの考察</li> </ul>
	鑑賞「四季」から「春」 ヴィバルディ曲	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バロック時代の協奏曲の特徴を実際の楽譜を見ながら確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・西洋音楽史の中でのバロック時代の位置づけ</li> </ul>

2 学 期	<p>楽典 「音楽のいろいろな記号・用語」</p> <p>「筆記試験に向けて」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・表題音楽としての特徴とヴァイバルディの表現方法を感じながら鑑賞をする。</li> <li>・楽譜を見ながらソネットの箇所とソネットが表現している音楽の特徴を感じさせる。</li> <li>・ヴァイオリン・ビオラ・チェロ・コントラバスの弦楽器と通奏低音との響きに着目する。</li> </ul> <p>○音楽の特徴をその背景となる文化や歴史と関連付けて解釈をし、価値を考えるなどして、音楽の良さや美しさ味わって聴ける様にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽における様々な記号に関して、読みと意味とスペルを学ぶ。</li> <li>・1学期および2学期までに学んだ音楽理論の確認</li> </ul> <p>○音楽の仕組みや理論を学ぶことは、演奏を行う上でより豊かな音楽表現に繋げる事ができるという認識を持たせて主体的に取り組ませる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バロック音楽の特徴</li> <li>・リトルネッロ形式</li> <li>・ソネット</li> <li>・合奏</li> <li>・重奏</li> <li>・独奏</li> <li>・チェンバロのそれぞれの響きの特徴を理解する</li> <li>・単調になりがちな暗記もゲーム的な要素を入れ、楽しく主体的に取り組ませる。</li> <li>・ドリルノート</li> <li>・音名冊子</li> <li>・授業で配布したプリント</li> <li>・教科書</li> </ul>
冬 休 み 課 題	「振り返りシート」の提出	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2学期に録画したクラスの合唱演奏を見ての振り返りを行う。</li> <li>・全体を通しての感想</li> <li>・個人としての感想</li> <li>・今後の改善点や練習方法の工夫</li> </ul> <p>○合唱表現において、各声部の動きや響きに関心を持ち、その中でどのように歌うかについて主体的に取り組めるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・客観的に振り返る事ができるか</li> </ul>

3 学 期	<p>「歌の実技テスト」 後半</p> <p>「仕上げ」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実技テストとして、パート1名ずつで歌う。</li> <li>・提出した「振り返りシート」を基に、より充実した響きを目指す。</li> </ul> <p>○声部の役割や全体の響きを工夫しながら、どのように合わせて歌うかについて、考えや、意図を持たせる。</p> <p>○仲間と協力して音楽を創り上げる能力を養う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他パートにつられず、強弱等の工夫ができたかを認識させる。</li> <li>・指揮者、伴奏者を中心に、パートごとやクラス全体で、意見の交流を行う。</li> <li>・発声</li> <li>・言葉の発音</li> <li>・呼吸法などの技術を身に付ける。</li> <li>・パートリーダーの的確な指示</li> </ul>
	<p>合唱曲 卒業式の全体合唱 「夢をあきらめないで」 岡村 孝子作詞・作曲 2部合唱</p>		
	<p>「仕上げ」</p> <p>歌唱 卒業式の歌</p> <p>楽典 「一年間のまとめ」</p>	<p>○合唱祭での経験を基に、音取りやリズム習得において、短時間で仕上げる為の合理的な練習方法を工夫させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「君が代」斉唱</li> <li>・音名</li> <li>・音符、休符</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音取りや、全体合わせ等を、主体的に取り組み、短時間で成果を上げるための集中力を養う。</li> <li>・式典の心構え</li> <li>・中学1年生で習った内容を復習して次年度への順調な橋渡しとさせる。</li> </ul>

」

### 3. 学習計画及び評価方法等

評価の観点及び内容	評価方法（具体例）
<知識・技能> 授業で扱った音楽理論や用語・記号を理解し、読譜力が高まった。	定期考査 や提出物
<思考力・判断力・表現力> 表現豊かな演奏に向けて、発声や強弱やリズムなどの工夫ができた。	授業の様子や実技テスト
<主体性・多様性・協働性> 宿題を欠かさずこなす。不明点を解決するための努力をしている。	課題提出状況や、授業内・休み時間の様子で判断。

#### 【提出物状況の評価基準】

- A：期限を守り、答えの丸写しではなく自分の考えで8割以上解答している。
- B：解答はしっかりとできているが期限を守れなかった。  
もしくは期限を守れたが空欄が2割以上ある。
- C：「努力を要する」状況と判断される
- D：未提出、未実施